

大垣市金生山化石館

化石館だより

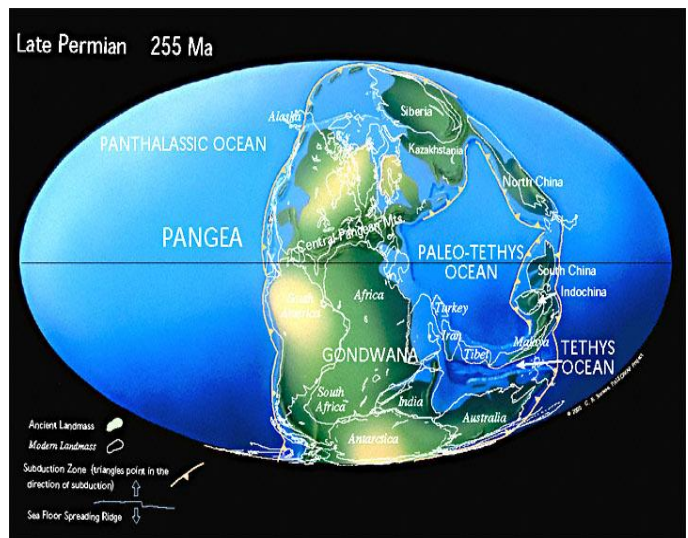
コラム

故郷は赤道直下

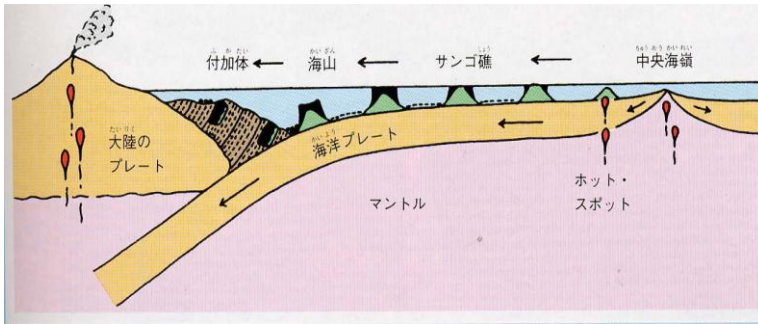
化石館に来られたお客さんに化石の説明をしていると、「ここは昔海だったのですか。」と尋ねられます。そこで、「そうですよ。でもこの場所が海だったわけではありません。この山の石灰岩は、赤道直下にあったサンゴ礁で堆積したのです。そして、海洋プレートの動きによってここまで移動してきたのです。」と説明するとたいへん驚かれます。

石灰岩は、サンゴの骨格や貝殻、有孔虫の殻、海綿、石灰藻など、炭酸カルシウムを主成分とする生物の遺骸が沢山堆積し固結することによって生成します。このような生物の遺骸が大量に堆積する場所の一つがサンゴ礁です。金生山の石灰岩には、陸源の砂や土が含まれていません。ですから陸地に近い大陸棚で堆積したのではなく、陸から遠く離れた大洋上のサンゴ礁が起源であろうと考えられています。

現在のサンゴ礁は、ほとんどが熱帯から亜熱帯の海に分布していますが、2億5千万年前、金生山の石灰岩が堆積したサンゴ礁も、現在と同じような熱帯域の海にあったと考えられています。その頃は世界中の大陸が一つにまとまって、パンゲアという超大陸を形成していました。そして、今の地中海のように大陸の奥深くに入り込んだテチス海という浅海があり、その開口部に近いパンサラサ海の洋上で、赤道のほぼ直下に金生山の石灰岩が堆積したサンゴ礁があったと推定されているのです。



はるか離れた場所にあったサンゴ礁が何千kmも移動してきたということは信じがたいことですが、プレートテクトニクスという学説では、地球の表面が何枚もの岩盤（プレート）に覆われていて、これらが互いに動いていると説明されています。実際、宇宙からの微弱な電波を利用した計測システムによって、茨城県の鹿島とハワイの間では、一年間に8cm接近したことが観測されています。これは、太平洋



プレートがハワイ島（海山）を乗せたまま、ゆっくりと移動していることによるものですが、年間に数cmであっても、1億年という時間をかければ数千kmも移動することになりますから、赤道直下から移動してきたと考えることは十分可能なのです。

日常の時間を超越した大きな時間のスケールで考えていくと、何とも不思議なことが生じますね。



お知らせ



金生山自然講座

- 10月13日（日）： 陸貝を採集して観察しよう。
- 10月20日（日）： 小さな化石を取り出して観察しよう。
- 10月27日（日）： 化石のレプリカをつくろう。

午前9時から11時まで、金生山化石館で行いますが、20日は赤坂地区センターで実施します。対象は小学4年生以上、一般市民、先着20名までです。参加費は3回分まとめて500円です。

<後期企画展> 赤坂石灰岩を調べた学者たち

金生山は「日本の古生物学発祥の地」であり、「日本の古生物学のメッカ」です。

明治から大正にかけて、内外の著名な学者が赤坂石灰岩の地質や化石について調べ多くの報告をしています。こうした日本の古生物学黎明期の研究について紹介します。

期 間： 10月12日（土）から1月31日（金）まで

場 所： 金生山化石館 休館日は火曜日

入館料は大人100円。18歳以下は無料です。

問い合わせ： 大垣市金生山化石館 電話 (0584) 71-0950 (ファックスも同じ)

Email kasekikan@vanilla.ocn.ne.jp